

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102216		
法人名	医療法人千秋会		
事業所名	グループホームおおり台新田		
所在地	栃木県宇都宮市台新田1-14-7 (電話) 028-659-7666		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月25日

【情報提供票より】 (平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日、平成15年9月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人 10 人	常勤3人, 非常勤8人, 常勤換算8.0人 常勤4人(うち兼務1人), 非常勤6人, 常勤換算7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	2階建ての1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	・ 理美容代、おむつ代—実費 ・ 光熱水費—585円/1日 ・ 日用消耗品費—150円/1日
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	65 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大場医院、大場歯科医院、宇都宮中央病院、宇都宮社会保険病院、越戸クリニック、菊池整形外科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの外観は、大き目のアパートと変わらない造りで、周辺の住宅に溶け合った佇まいになっている。入居者、職員とも穏やかで、和やかな空気が流れていた。母体法人の医院はホームからやや離れた位置にあるが、毎月の全体会議には理事長も参加し、ホームの様子を見て、職員に話をしている。開設以来、職員の離職は結婚・出産による2名と定着率が高く、職員もホームでの生活を入居者と一緒に楽しんでいる様子がうかがえた。職員は、有資格者が多く、年代も適度に分散されていることからそれぞれの特技を活かして支援にあたっている。近隣の公園に出掛けたり、市民センターを利用したりしながら、地域での理解を深めてきているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、話し合っている。また、職員からもアンケートをとり、会議でも話し合った。職員会議等を通して改善の取組みに努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、サービス項目については全職員にアンケートをとり、その他の項目については管理者が原案を作成し、会議等で職員の意見を聞きながら最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地区社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市の介護相談員、家族代表に参加してもらっている。ボランティアの活用などを話し合い、メンバーの民生委員の協力で地域の民生委員・ボランティアによる自慢料理試食会を行うなど、会議をホームの理解促進、地域との交流促進に役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に報告するほか、毎月広報誌を送付したり、必要に応じて随時電話をしたりしている。アルバムを作っている。預り金の管理は、毎月の出納状況を家族に送付して報告している。職員が変わったときには家族の訪問時に紹介している。重要事項説明書の別紙として、ホームの窓口、市、国保連、栃木県運営適正化委員会の窓口を明記している。事業所独自で、無記名での家族アンケートを実施するなど、家族等の意見などを把握するよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、自治会や地域の行事に参加している。近隣の公園に出掛けて近所の人と話をしたりする中で、近隣の保育園とも交流をするきっかけになったりしている。市民センターを活用したり、ボランティアとの交流もしている。職員が付き添ったりしながら、近所の美容院なども利用している。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時から「のんびり・楽しく・自由に」をモットー（理念）として掲げている。地域の民生委員や保育園児との交流、地域行事への参加などを通して地域への理解促進を図っている。	○	地域の人々との関係を大切にしており、地域の中での認知症理解についても意欲を持っているので、今後、理念について検討するようなどときには、地域との関係などについても検討に加えてみることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期会議などで話し合いをしながら、理念の実践に努めている。特に決まった日課はなく、近所の公園への散歩や地域行事に参加するなど、「のんびり・楽しく・自由に」生活できるよう支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会や地域の行事に参加している。近隣の公園に出掛けて近所の人と話をしたりする中で、近隣の保育園とも交流をするきっかけになったりしている。市民センターを活用したり、ボランティアとの交流もしている。市民センターを会場に、地域の方にも呼びかけて「ふれあいの会」として本格的なフラメンコライブなども行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、話し合っている。また、職員からもアンケートをとり、会議でも話し合った。職員会議等を通して改善の取組みに努めている。今回の自己評価は、サービス項目については全職員にアンケートをとり、その他の項目については管理者が原案を作成し、会議等で職員の意見を聞きながら最終的に管理者がまとめた。		

グループホームおおり台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区社会福祉協議会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市の介護相談員、家族代表に参加してもらっている。ボランティアの活用などを話し合い、メンバーの民生委員の協力で地域の民生委員・ボランティアによる自慢料理試食会を行うなど、会議をホームの理解促進、地域との交流促進に役立っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員派遣事業を利用しており、運営推進会議にも参加してもらっている。管理者が市の窓口に出掛けていくなどして相談、報告などを行っている。地域包括支援センターの開催する介護予防教室に参加したり、管理者が介護教室のシンポジストとして参加したりと地域包括支援センターとの連携を図っている。	○	地域密着型サービスになり、市町村がグループホームの所管になり、身近になったと感じている。地域の方々に認知症に対する理解を深めていきたいという思いもあり、職員には有資格者も多い。今後も市との連携を深めながら、共に質の向上を図っていく関係づくりに努めていくことに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に報告するほか、毎月広報誌を送付したり、必要に応じて随時電話をしたりしている。アルバムを作っている。預り金の管理は、毎月の出納状況を家族に送付して報告している。職員が変わったときには家族の訪問時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の別紙として、ホームの窓口、市、国保連、栃木県運営適正化委員会の窓口を明記している。事業所独自で、無記名での家族アンケートを実施するなど、家族等の意見などを把握するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、結婚や出産による退職のほかは、離職、異動はない。職員採用時にはホームに合う人かどうか見極めてから採用したり、風通しのよい職場環境づくりに努めるなどしている。職員の変更があったときは他の職員がフォローしながら、入居者との関係づくりをしている。		

グループホームおおり台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の案内があったときには、希望者を募ったり、管理者が指名するなどして研修に参加し、受講後は報告書作成や定期会議時に報告するなどして研修内容の共有に努めている。また、定期会議の際に看護師を講師として勉強会を行ったり、ホームで認知症ケアの専門誌を定期購読するなどしている。	○	職員の体制などで長期的な研修参加の難しさはあるが、今後更に、認知症介護実践研修などにも交替で参加できるような工夫を検討していくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・国段階の事業者連絡組織に加入している。県段階の連絡組織ができる前から当市や隣市のグループホームのネットワークに参加しており、電話などで相談や情報交換もしながら質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申込があった時には、本人・ホーム双方共に一緒に生活をしていくことが負担にならないか、日帰り体験をして見極めている。必要によっては、3回まで体験してもらっている。入居後は、入居者間の関係性づくりを支援したりしながら、徐々にホームでの生活に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮したり、「どうしますか？」と声かけをしたりしながら、掃除や調理など一緒にしている。昔のことや調理を教わったりもしている。訪問時も一緒に食後の後片付けをしたり、掃除をしたりする姿が見られた。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の作成にあたっての意向の確認、日々の生活の中で選択してもらおうような場面をつくるなどしている。嗜好の把握などもしている。生活歴や特技などをアセスメントし、本人本位に検討するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が担当分担して介護計画の原案を作成し、カンファレンスで検討したうえで、計画作成担当者を取りまとめており、職員の気づきやアイデアも取り入れて介護計画を作成している。介護支援専門員、看護師、管理栄養士など職員に有資格者が多くいて、それぞれの専門職としての視点も活かせる体制がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月を目安に介護計画の見直しをすることとしており、入居者それぞれの計画終了時期を一覧表にして期日管理をしている。入居者の状態が変わったときなどは、その都度介護計画を見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。職員が付き添って近所の美容院を利用するなど柔軟な対応に努めている。職員だけで本人の願いをかなえることが難しいときは家族に協力をお願いしている。		

グループホームおおり台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に確認しているが、現在は、全員が母体法人の医療機関を受診している。受診時には職員が対応しており、適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医を継続受診する場合は、家族対応をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を作成し、家族に説明し、同意ももらっている。ホームは「家庭的な生活をする家」であり、家庭的な医療、看護、介護対応に限ることを方針としている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人にあった声かけ、必要とされる前に手を貸さないなどプライドに配慮した対応を心がけている。玄関には全国グループホーム協会の倫理綱領が掲示されていた。個人記録などは、1階、2階のそれぞれの事務スペースで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めておらず、起床のおそい方もある程度の配慮をしながらも決まった時間に起こすことをしない、など一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。室内でのレクリエーションなどもあらかじめ計画化しておくのではなく、その時々雰囲気などに配慮しながら生活の中に取り入れている。		

グループホームおおるり台新田

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の好みや食べられない物などを把握して、代替メニューを準備するなどしている。職員も入居者と同じ物を食べ、必要に応じて声かけなどをしていた。調理は難しくなっているが、後片付けや洗い物など、できる範囲で一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は2日に1度の入浴を支援することが多い。夏場にはシャワー浴なども取り入れている。医師から入浴の制限の指示のある方には足浴や清拭などで支援している。入浴支援の時間が職員との1対1のコミュニケーションの機会でもあると考えている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら、食事の準備・片付け、掃除、洗濯物たたみ等をしてもらったり、職員と一緒にしたりしている。天候の良い時期には近くの公園に行って、地域の方と話をしたりしている。カラオケ、歌会などをしたり、趣味としての裁縫をする方がいたり楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時期には近くの公園に出掛けたり、年3回行事的なドライブをしたり、職員が付き添って近所の美容院を利用したり、市民センターを利用したりと外出の機会をつくっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けていない。外出傾向のある方には職員が付き添って歩いたりしながら、鍵をかけないケアの実践をしている。		

グループホームおおるり台新田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。消防署には避難訓練のほか、救急救命講習をお願いするなど連携をしている。地域の方々には日常の会話を通して協力が得られるようお願いしている。備蓄をしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格を持つ職員がおり、調味料の分量も含めて、細かな献立を作成している。また、キッチンには医師から指示のある入居者への注意事項などを貼って、適切な提供ができるように配慮し、食事摂取量を把握している。水分摂取量は特に記録化していないが、必要な量を摂取できるよう配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時節柄、訪問時には雛人形が飾ってあった。入居者がテレビを見てくつろぐリビングスペースは、日当たりがよいが、カーテンで日差しを遮っていた。換気は窓の開け閉めで行い、室内に空気のよどみ等はなかった。床暖房が敷設されている。職員は穏やかに入居者に話しかけており、テレビなども含めて気になるような音の大きさはなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具としてホームで準備しているものはなく、ベッドやタンス、人によってはテレビや仏壇などを持ち込んでいる。畳の生活に慣れた方は、フローリングの一部分に畳状の敷物を置いている。布団の上げ下げなどは、本人ができない部分を職員が手伝っている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。